

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

世界、株式市場異変 (「キャリー・トレード」終焉か)

アイスランドという北極圏の小国で通貨と株価が急落し始めたのは今年3月だった。同国は90年代、貿易収支の改善や構造改革実施等で高成長をとげているという評価の高い国だった。その国が、今では国債の発行も困難になるほどの危機に陥っている。

順風満帆な同国に何が起こったのか。下図は同国の株式市場の推移である。

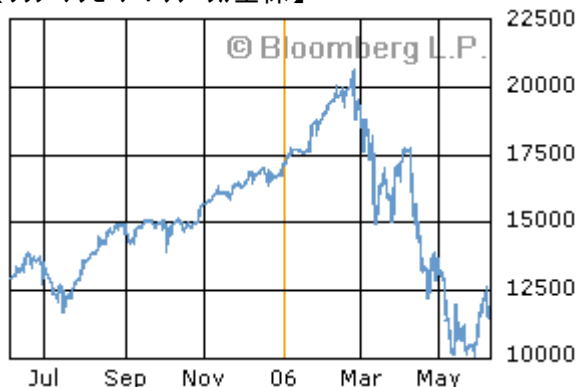
【アイスランド：ICEX15種】



中東のサウジアラビアで株価の急落が始まったのも3月だった。原油高を背景にオイルマネーの膨張が続く中、株式市場は3ヶ月で半値になるなどブームから一転先の見えない調整局面に入っている。

経済は絶好調なのに株価は暴落。中東の盟主に何か異変が起こっているのだろうか。

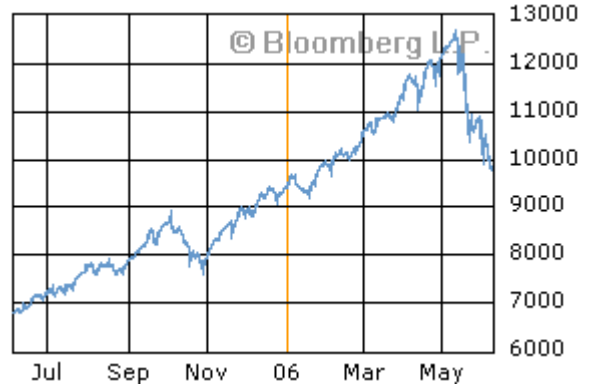
【サウジアラビア：タワラ全株】



数字に強い人材を豊富に擁し、BRICs最大の有望国と云われるインド株価の急落が伝えられたのは5月だった。この1ヶ月足らずで3割近く下がっている。

世界のソフト企業が集結する都市を有し、経済も好調なこの国の株価が急落する原因はどこにあるのだろうか。

【インド：ムンバイSENSEX30種】



ここ数ヶ月、気になった国の株式市場の動きを图示したが、株式市場に異変が起こっているのは何もこの3カ国だけではない。BloombergのHPを覗けば世界各国の株価指数の推移図を見ることができ、多くの国で株価が下げている。もちろん、日本も例外ではない。ただ下げ始めた時期は、多くの国ではごく最近のことである。その意味で、アイスランドやサウジは「下げの先魁」のよう見える。

以下は、数字的根拠があるわけではない私の推測である。

日本の量的緩和解除を象徴とする主要国の金融緩和政策の終焉が、著しく拡大していた世界の金融負債を縮小に向かわせた。金融負債の縮小は金融資産の縮小である。金融資産が拡大から縮小に転じたのが急落の原因ではないか。

ここ数年、金利の低い国で資金を調達し、投資妙味のある国に資金を投じるという手法「キャリー・トレード」が盛んだった。その最大の資金提供国は日本だったが、その日本も3月金融緩和を解除した。既に日銀当座は20兆円縮小している。つまりは、お金の逆流が始まったのだ。

アイスランドやサウジの株式市場規模は小さい。規模が小さな市場では、日本では問題とならない規模の資金が出ていだけでショックが走る。そしてショックはやがて津波のように増幅しながらより大きな市場に及んでくる。

この流れがいつまで続くのか判らないが、未だしばらくは続くような気がする。